

2010/6/9

柏の景気情報（平成22年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年5月分）

○ 調査期間 : 平成22年5月19日 ~ 5月25日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	72	67.3%
建設	19	15	78.9%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年5月の調査結果のポイント】

《業況DIのマイナス幅拡大 全国をわずかに下回る》

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.0(前月水準▲39.4)となり、マイナス幅が▲3.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲64.2)であり、マイナス幅が△30.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲62.9(同▲48.1)、サービス業▲50.0(同▲38.4)、製造業▲12.5(同▲5.8)である。

【建設業】からは、「業界全体の体質改善と新分野への転換が課題」(土木工事業(舗装、しゅんせつを除く))、「公共事業の管工事(建設)部門を抱えています、入札がなく担当社員を遊ばせている状態です」(管工事業(さく井を除く))等のコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原材料価格が高値で推移しており、採算を圧迫している」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「利益率の高いセクションの売上げが伸び、低いセクションが減っているため、売上高は変わらずも採算は好転。ただし先行きは不明」(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「地元の飲食店がかなり悪化しているので、我々も納品数量が激減しています」(食料・飲料卸売業)、「子ども手当により生活に余裕が多少なりとも感じられるようになってほしい」(その他の各種商品小売業)、「ベストセラー作品の発売で、売上減少分を穴埋めできたため、売上前年並み確保」(書籍・文房具小売業)、「5月度GWの入店客数は集客イベントに左右され、日によって増減があり、5日累計では94.2%であったが、売上高は天候に恵まれ夏物衣料が活発化したことから売上げ累計は99.8%という結果であった。上旬は母の日イベント等で前年並み、中旬は低調な推移となり、特に平日の落ち込みが大きく苦戦した」(各種商品小売業)、「商店街の撤退閉店が目立つ」(書籍・文房具小売業)などといった声も寄せられた。

【サービス業】では、「宴席は堅調に推移しているものの、宿泊の売上げが非常に厳しい」(ホテル)といったコメントがあった。

◎消費動向

各業種から、「売上、来店客数ともに下げ止まり感はあるものの、先の欧州の金融不安による株安の影響など、今後の消費動向に悪要因となる事象も発生しており、楽観できない状況」(百貨店)、「新聞等では一部の企業で賞与の増加が期待できるとの報道があり、今後の消費拡大を期待したい」(食料・飲料卸売業)、「子どもの日、母の日いずれも例年より財布のひもが固くなっている」(その他の各種商品小売業)、「低価格競争(販売)が激化していると感じる。消費者は衣料食品ともに低価格商品で満足している状態」(その他の飲食料品小売業)などの声が多数寄せられた。

◎天候不順の影響

各業種から、「先日の低温長雨日照不足から、青果物の成長に影響し、価格の高騰がありました。一転GWの好天続きから、青果物は順調な育成となり、単価安売上げ減の厳しい状況となりました。今後の天候も高低差の予報があり、密な情報と消費動向を得ながら取引をしています」(食料・飲料卸売業)、「春物衣料が天候不順で不調であったが、気温の上昇とともに価格の低い軽衣料が若干ではあるが売れている」(その他の各種商品小売業)、「宮崎県の家畜伝染病に対して風評被害が少しずつ出てきたのと、5月に入り強風と雨の天候不順による来店客数の減少が続いています」(食肉小売業)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
見通し	▲37.5	▲13.3	▲12.5	▲55.5	▲57.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.0(前月水準▲39.4)となり、マイナス幅が▲3.6ポイント拡大した。

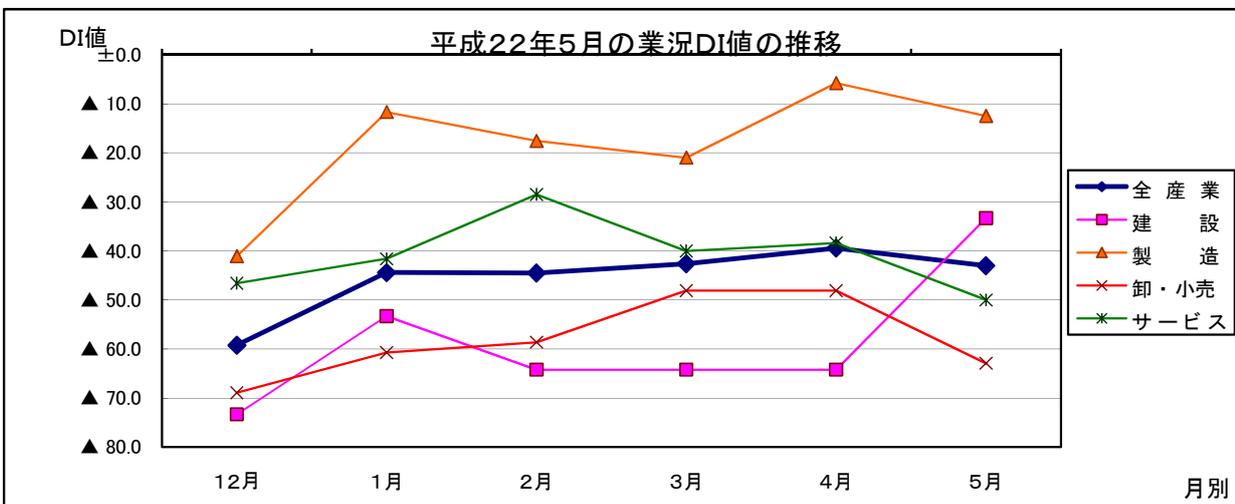
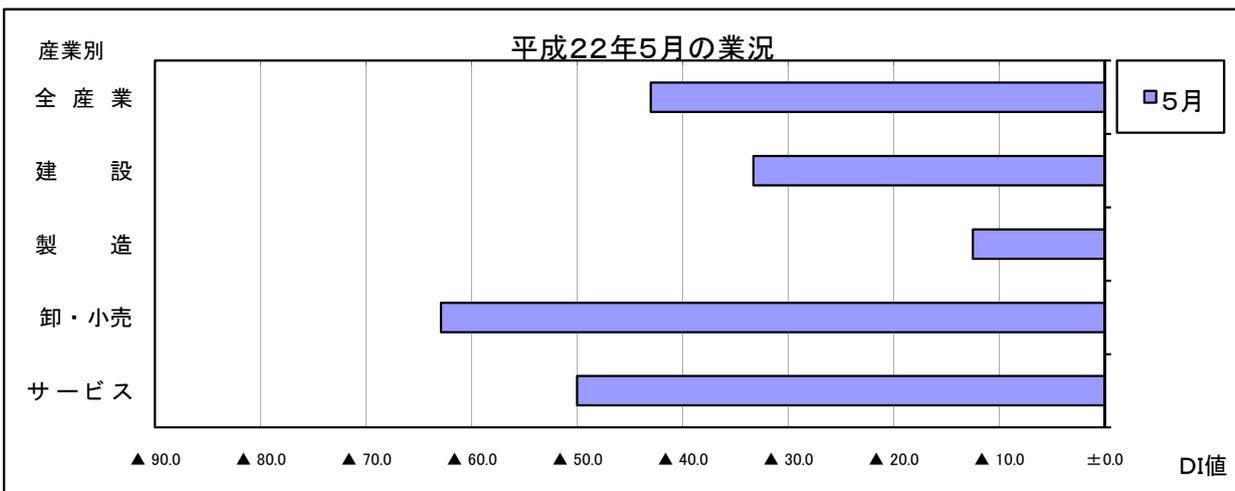
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲33.3(同▲64.2)であり、マイナス幅が△30.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲62.9(同▲48.1)、サービス業▲50.0(同▲38.4)、製造業▲12.5(同▲5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲37.5(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が▲12.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲13.3(同▲42.8)であり、マイナス幅が△29.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲57.1(同▲23.0)、卸小売業▲55.5(同▲25.9)、製造業▲12.5(同▲11.7)であり、特に、サービス業、卸小売業はマイナス幅が▲20ポイント以上大幅に拡大する見通しである。

平成22年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲ 59.2	▲ 44.4	▲ 44.5	▲ 42.6	▲ 39.4	▲ 43.0	▲ 37.5 (▲ 25.3)
建設	▲ 73.3	▲ 53.3	▲ 64.2	▲ 64.2	▲ 64.2	▲ 33.3	▲ 13.3 (▲ 42.8)
製造	▲ 41.1	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 5.8	▲ 12.5	▲ 12.5 (▲ 11.7)
卸・小売	▲ 68.9	▲ 60.7	▲ 58.6	▲ 48.1	▲ 48.1	▲ 62.9	▲ 55.5 (▲ 25.9)
サービス	▲ 46.6	▲ 41.6	▲ 28.5	▲ 40.0	▲ 38.4	▲ 50.0	▲ 57.1 (▲ 23.0)



【平成22年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.1(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が▲6.6ポイント拡大した。

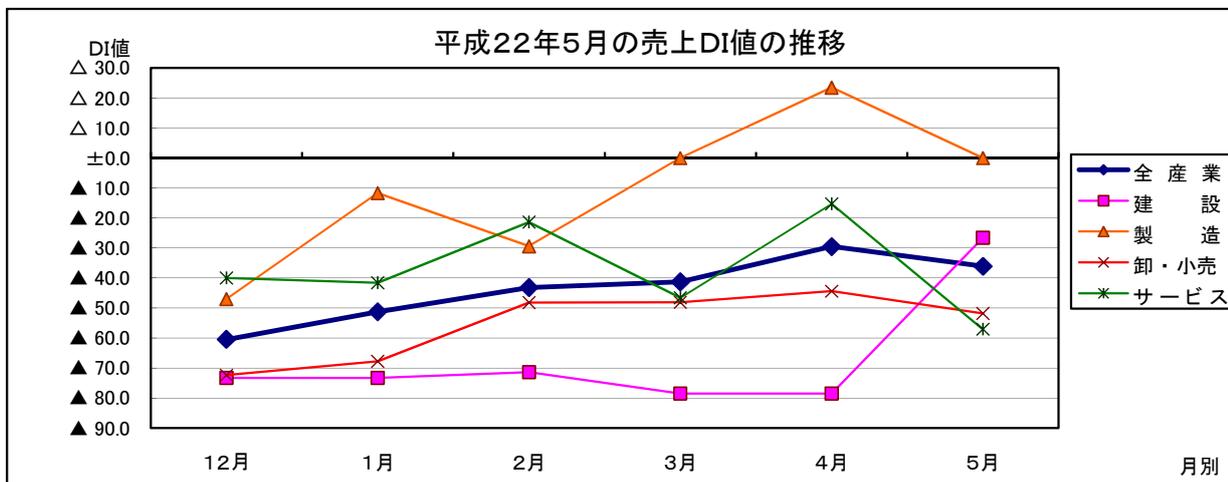
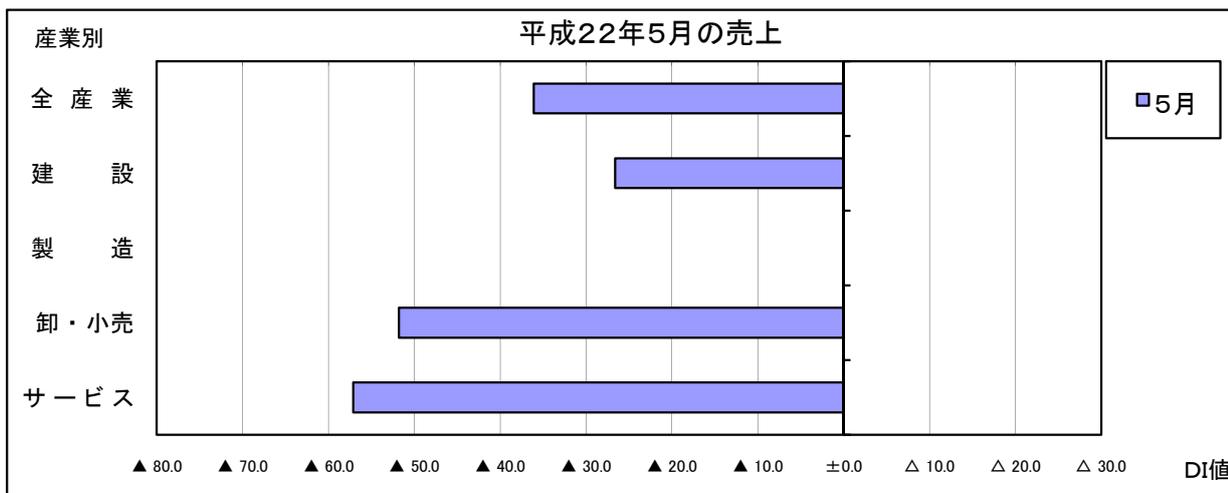
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.6(同▲78.5)であり、マイナス幅が△51.9ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△23.5)であり、プラス幅が▲23.5ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲57.1(同▲15.3)、卸小売業▲51.8(同▲44.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲41.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.2(前月水準▲32.3)となり、マイナス幅が△10.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業±0.0(同△18.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲57.1)、卸小売業▲37.0(同▲44.4)である。特に、建設業はマイナス幅が△30.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲35.7(同▲23.0)である。

平成22年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲60.5	▲51.3	▲43.2	▲41.3	▲29.5	▲36.1	▲22.2(▲32.3)
建設	▲73.3	▲73.3	▲71.4	▲78.5	▲78.5	▲26.6	▲26.6(▲57.1)
製造	▲47.0	▲11.7	▲29.4	±0.0	△23.5	±0.0	△18.7(±0.0)
卸・小売	▲72.4	▲67.8	▲48.2	▲48.1	▲44.4	▲51.8	▲37.0(▲44.4)
サービス	▲40.0	▲41.6	▲21.4	▲46.6	▲15.3	▲57.1	▲35.7(▲23.0)



【平成22年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲42.2)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大した。

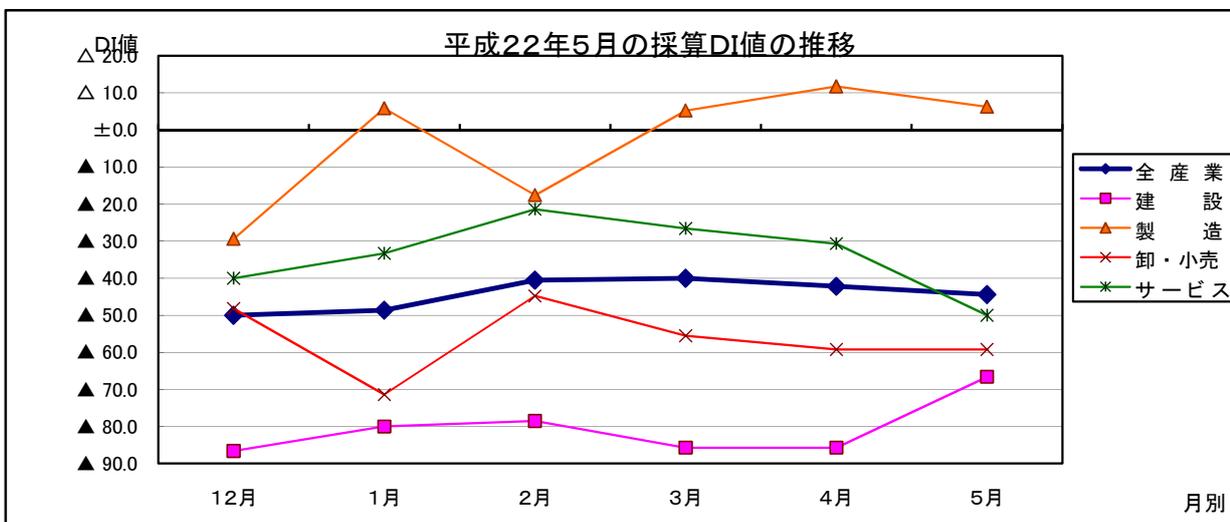
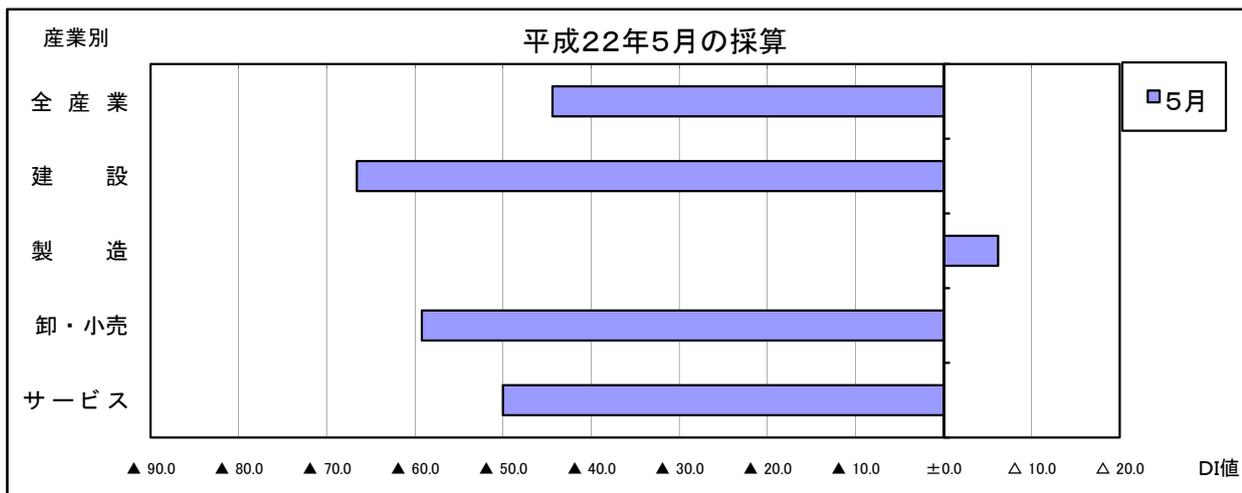
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲66.6(同▲85.7)である。変らない業種は、卸小売業▲59.2(同▲59.2)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△6.2(同△11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲50.0(同▲30.7)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.1(前月水準▲35.2)となり、マイナス幅が△6.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲50.0)、卸小売業▲40.7(同▲48.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲35.7(同▲23.0)である。

平成22年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲ 50.0	▲ 48.6	▲ 40.5	▲ 40.0	▲ 42.2	▲ 44.4	▲ 29.1 (▲ 35.2)
建設	▲ 86.6	▲ 80.0	▲ 78.5	▲ 85.7	▲ 85.7	▲ 66.6	▲ 40.0 (▲ 50.0)
製造	▲ 29.4	△ 5.8	▲ 17.6	△ 5.2	△ 11.7	△ 6.2	△ 6.2 (▲ 11.7)
卸・小売	▲ 48.2	▲ 71.4	▲ 44.8	▲ 55.5	▲ 59.2	▲ 59.2	▲ 40.7 (▲ 48.1)
サービス	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 21.4	▲ 26.6	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 35.7 (▲ 23.0)



【平成22年5月の仕入単価についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が△4.5ポイント縮小した。

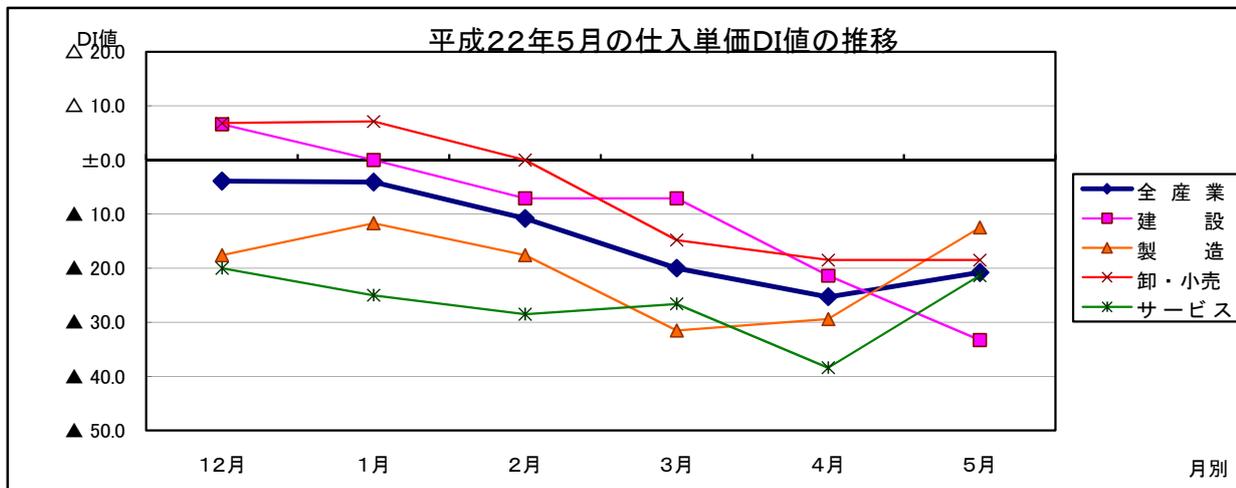
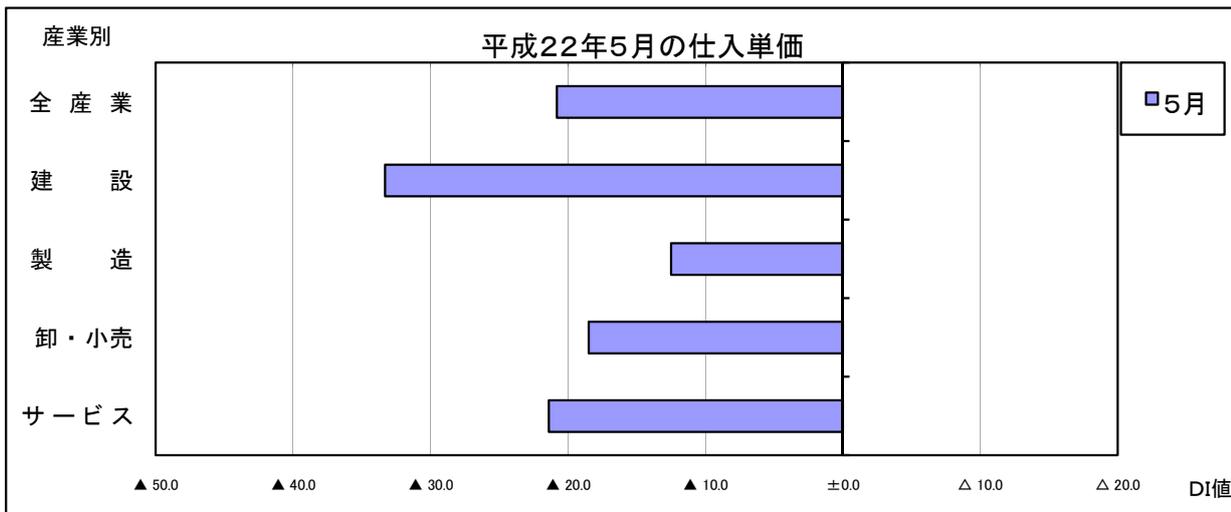
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲38.4)、製造業▲12.5(同▲29.4)である。変らない業種は、卸小売業▲18.5(同▲18.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲33.3(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.3(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が▲10.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲35.7(同▲46.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲3.7)、建設業▲26.6(同▲7.1)、製造業▲18.7(同▲17.6)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲ 3.9	▲ 4.1	▲ 10.8	▲ 20.0	▲ 25.3	▲ 20.8	▲ 26.3 (▲ 15.4)
建設	△ 6.6	±0.0	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 33.3	▲ 26.6 (▲ 7.1)
製造	▲ 17.6	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 31.5	▲ 29.4	▲ 12.5	▲ 18.7 (▲ 17.6)
卸・小売	△ 6.8	△ 7.1	±0.0	▲ 14.8	▲ 18.5	▲ 18.5	▲ 25.9 (▲ 3.7)
サービス	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 28.5	▲ 26.6	▲ 38.4	▲ 21.4	▲ 35.7 (▲ 46.1)



【平成22年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.7(前月水準▲7.0)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小した。

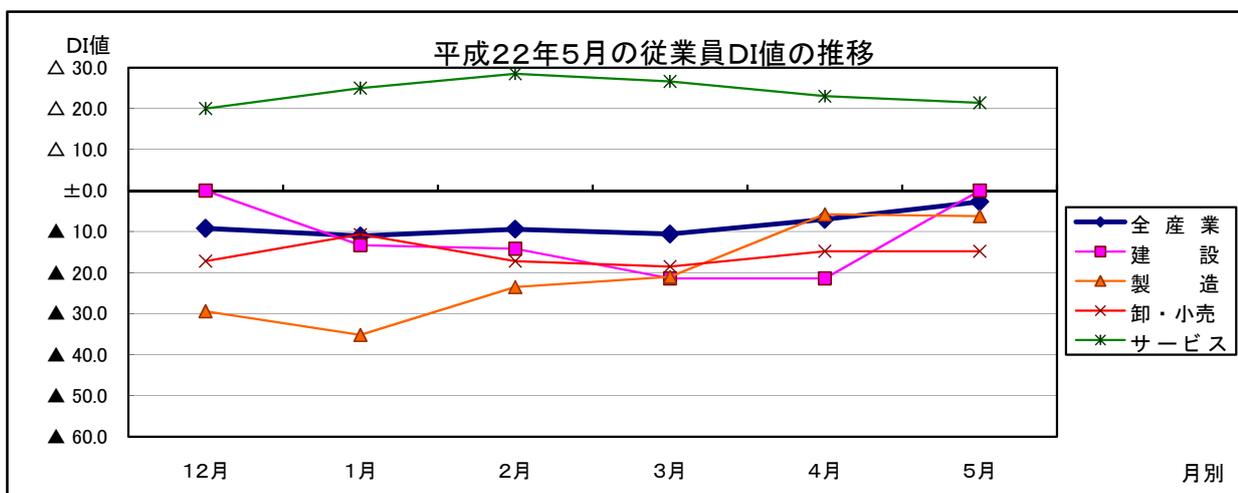
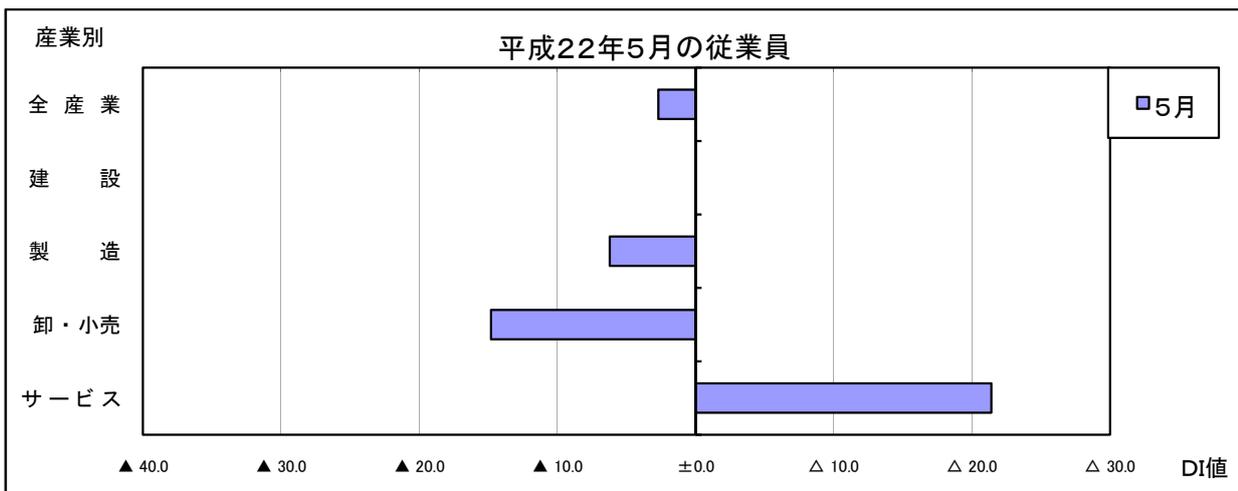
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲21.4)であり、マイナス幅が△21.4ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、卸小売業▲14.8(同▲14.8)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△21.4(同△23.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲6.2(同▲5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.5(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲6.6(同▲21.4)、卸小売業▲18.5(同▲22.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△21.4(同△23.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲6.2(同▲5.8)である。

平成22年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲9.2	▲11.1	▲9.4	▲10.6	▲7.0	▲2.7	▲5.5(▲9.8)
建設	±0.0	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲21.4	±0.0	▲6.6(▲21.4)
製造	▲29.4	▲35.2	▲23.5	▲21.0	▲5.8	▲6.2	▲6.2(▲5.8)
卸・小売	▲17.2	▲10.7	▲17.2	▲18.5	▲14.8	▲14.8	▲18.5(▲22.2)
サービス	△20.0	△25.0	△28.5	△26.6	△23.0	△21.4	△21.4(△23.0)



【平成22年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.7(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が▲12.2ポイント拡大した。

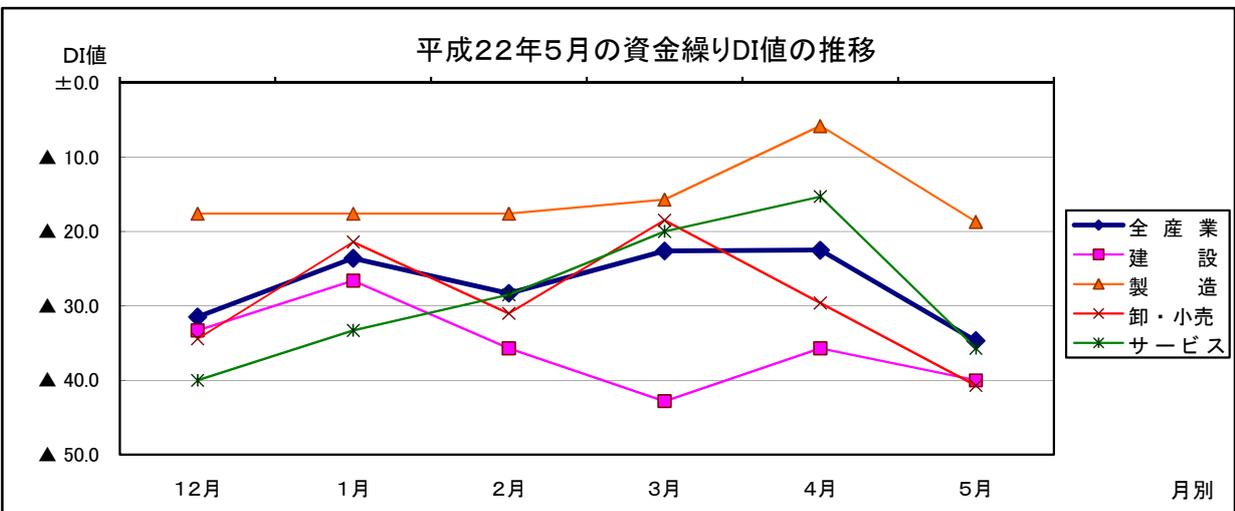
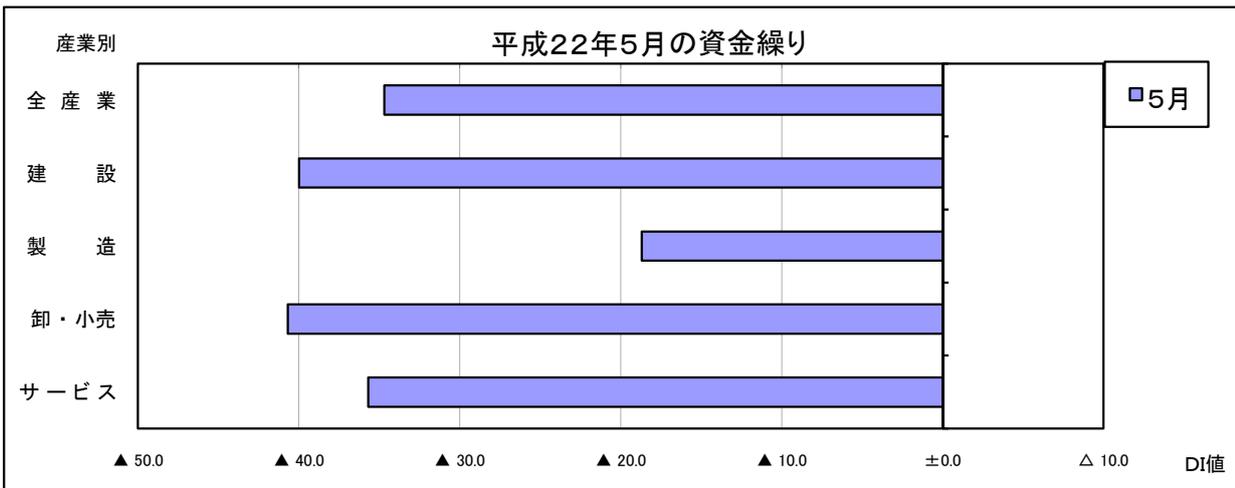
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種においてマイナス幅が拡大し、幅の大きい順に、サービス業▲35.7(同▲15.3)、製造業▲18.7(同▲5.8)、卸小売業▲40.7(同▲29.6)、建設業▲40.0(同▲35.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲20.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.1(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が▲9.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲17.6)、建設業▲13.3(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.7(同▲15.3)、卸小売業▲44.4(同▲25.9)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲20.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 12月	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲ 31.5	▲ 23.6	▲ 28.3	▲ 22.6	▲ 22.5	▲ 34.7	▲ 29.1 (▲ 19.7)
建設	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 35.7	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 13.3 (▲ 14.2)
製造	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 15.7	▲ 5.8	▲ 18.7	▲ 12.5 (▲ 17.6)
卸・小売	▲ 34.4	▲ 21.4	▲ 31.0	▲ 18.5	▲ 29.6	▲ 40.7	▲ 44.4 (▲ 25.9)
サービス	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 20.0	▲ 15.3	▲ 35.7	▲ 35.7 (▲ 15.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 36.1	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 29.1	▲ 20.8	▲ 26.3	▲ 2.7	▲ 5.5
建設	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 66.6	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 26.6	±0.0	▲ 6.6
製造	±0.0	△ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 6.2
卸・小売	▲ 51.8	▲ 37.0	▲ 59.2	▲ 40.7	▲ 18.5	▲ 25.9	▲ 14.8	▲ 18.5
サービス	▲ 57.1	▲ 35.7	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 21.4	▲ 35.7	△ 21.4	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 43.0	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 29.1
建設	▲ 33.3	▲ 13.3	▲ 40.0	▲ 13.3
製造	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.5
卸・小売	▲ 62.9	▲ 55.5	▲ 40.7	▲ 44.4
サービス	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 35.7	▲ 35.7

【平成22年5月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	業界全体の体質改善と新分野への転換が課題	体質改善 新分野転換	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	公共事業の管工事(建設)部門を抱えていますが、入札がなく担当社員を遊ばせている状態です。	入札減少 人員過剰	管工事業(さく井を除く)
工業	原材料価格が高値で推移しており、採算を圧迫している。	原材料高騰 採算圧迫	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	利益率の高いセクションの売り上げが伸び、低いセクションが減っている ので、売上高は変わらずも採算は好転。ただし先行きは不明	採算好転 先行き不透明	生コンクリート製造業
卸小売	地元飲食店がかなり悪化しているため、我々も納品数量が激減しています。	飲食店悪化 納品数激減	食料・飲料卸売業
	売上、来店客数ともに下げ止まり感はあるものの、先の欧州の金融不安 による株安の影響など、今後の消費動向に悪要因となる事象も発生して おり、楽観できない状況	売上下げ止まり感 金融不安 消費動向	百貨店
	子ども手当により生活に余裕が多少なりとも感じられるようになってほし い。	子ども手当	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	先日の低温長雨日照不足から、青果物の成長に影響し、価格の高騰が ありましたが、一転GWの好天続きから、青果物は順調な成育となり、単価 安売り上げ減の厳しい状況となりました。今後の天候も高低差の予報が あり、密な情報と消費動向を得ながら取引をしています。また、新聞等で は一部の企業で賞与の増加が期待できるとの報道があり、今後の消費拡 大を期待したい。	天候不順 青果価格高騰 売上減少 賞与 消費拡大の期待	食料・飲料卸売業
	子どもの日、母の日いずれも例年より財布のひもが固くなっている。	消費者の節約志向	菓子・パン小売業
	低価格競争(販売)が激化していると感じる。消費者は衣料食品ともに低価 格商品で満足している状態。天候不順とあわせてどう対応していくかしば らく続くと思う。	低価格競争 消費者の節約志向 天候不順	その他の飲食料品小売業
	仕入価格は高値で推移。徐々に2名の社員採用をし早急に育成してい る。	仕入価格 社員採用	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	ベストセラー作品の発売で、売上減少分を穴埋めできたため、売上前年 並み確保	ベストセラー 売上前年並み	書籍・文房具小売業
	春物衣料が天候不順で不調であったが、気温の上昇とともに価格の低い 軽衣料が若干ではあるが売れている。	春物衣料不調 天候の影響	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	5月度GWの入店客数は集客イベントに左右され、日によって増減があり、 5日累計では94.2%であったが、売上高は天候に恵まれ夏物衣料が活発 化したことから売り上げ累計は99.8%という結果であった。上旬は母の日イ ベント等で前年並み、中旬は低調な推移となり、特に平日の落ち込みが 大きく苦戦した。	ゴールデンウィーク 集客イベント 夏物衣料好調 母の日 平日苦戦	各種商品小売業
商店街の撤退閉店が目立つ	商店閉店	書籍・文房具小売業	
宮崎県の家畜伝染病に対して風評被害が少しずつ出てきたのと、5月に 入り強風と雨の天候不順による来店客数の減少が続いています。	家畜伝染病 風評被害 天候不順 来店客数減少	食肉小売業	
サービス	宴席は堅調に推移しているものの、宿泊の売り上げが非常に厳しい。	宴会堅調 宿泊減少	ホテル

◎消費動向

- ・ 売上、来店客数ともに下げ止まり感はあるものの、先の欧州の金融不安による株安の影響など、今後の消費動向に悪要因となる事象も発生しており、楽観できない状況
- ・ 新聞等では一部の企業で賞与の増加が期待できるとの報道があり、今後の消費拡大を期待したい。
- ・ 子どもの日、母の日いずれも例年より財布のひもが固くなっている。
- ・ 低価格競争(販売)が激化していると感じる。消費者は衣料食品ともに低価格商品で満足している状態。

◎天候不順の影響

- ・ 先日の低温長雨日照不足から、青果物の成長に影響し、価格の高騰がありました。一転GWの好天続きから、青果物は順調な成育となり、単価安売り上げ減の厳しい状況となりました。今後の天候も高低差の予報があり、密な情報と消費動向を得ながら取引をしています。
- ・ 春物衣料が天候不順で不調であったが、気温の上昇とともに価格の低い軽衣料が若干ではあるが売れている。
- ・ 宮崎県の家畜伝染病に対して風評被害が少しずつ出てきたのと、5月に入り強風と雨の天候不順による来店客数の減少が続いています。

平成22年5月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲43.0に対し、「CCI-LOBO」が▲39.7で、柏の方がマイナス幅が3.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.1に対し、「CCI-LOBO」が▲36.5で、柏の方がマイナス幅が0.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.4に対し、「CCI-LOBO」が▲38.8で、柏のほうがマイナス幅が5.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.8に対し、「CCI-LOBO」が▲20.9で、柏の方がマイナス幅が0.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.7に対し、「CCI-LOBO」が▲12.4で、柏の方がマイナス幅が9.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.7に対し、「CCI-LOBO」が▲27.1で、柏の方がマイナス幅が7.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業・サービス業で、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。

平成22年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 43.0	 33.3	 12.5	 62.9	 50.0
CCI LOBO	 39.7	 55.3	 25.4	 46.0	 39.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 36.1	 26.6	 ±0.0	 51.8	 57.1
CCI LOBO	 36.4	 51.1	 17.0	 46.9	 33.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 44.4	 66.6	 6.2	 59.2	 50.0
CCI LOBO	 38.8	 52.3	 26.4	 45.4	 37.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 20.8	 33.3	 12.5	 18.5	 21.4
CCI LOBO	 20.9	 31.2	 25.9	 10.0	 22.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 2.7	 ±0.0	 6.2	 14.8	 21.4
CCI LOBO	 12.4	 23.3	 15.5	 9.2	 5.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 34.7	 40.0	 18.7	 40.7	 35.7
CCI LOBO	 27.1	 39.4	 23.3	 28.5	 24.1

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：平成22年5月17日～21日

調査対象：全国の409商工会議所が2655業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIのマイナス幅は5カ月連続で縮小

5月の全産業合計の業況DIは39.7(前月比+6.0ポイント)と、マイナス幅が5カ月連続で縮小した。DIがマイナス30台を記録したのは2007年1月以来、2年6カ月ぶり。比較対象となる昨年5月の業況DIが65.7と極めて低い水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に着実に持ち直し動きが続いている。しかし、景気回復の自律性はまだまだ乏しく、競争激化による低価格受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、採算面では厳しい状況が続いている。各地からは、「景気回復はまだ実感できない」との声が寄せられている。

先行きについては、36.5(前月比+2.6ポイント)と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。全ての業種で、受注・売上に回復の兆しが徐々に出ており、先行きに期待する声も出ている。しかし、一部原材料価格の上昇や公共工事の減少に加え、急激な円高、宮崎県における口蹄疫の影響拡大が今後の懸念材料となっており、先行き見通しには慎重な声が強まっている。

【建設業】「人件費等を抑制して急場をしのいできたが、このまま公共工事を削減され続けると廃業も視野に入れなければならない」(建築事業)、「住宅建設はリフォームを中心に多少動きが見られる」(一般土木建築事業)、「住宅エコポイント制度による特需でどっぴりが持ちこたえている」(電気事業)

【製造業】「原材料の系が急騰している一方、製品価格は上がっておらず、今後相当厳しい状況になりそう」(織物業)、「鋼材価格が値上がりしているが、他の原材料価格を抑えることで採算を何とか維持している」(建設機械・鉱山機械製造業)、「少しずつではあるが受注回復の兆しが出ており、業況の悪化に歯止めがかかっている」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「稀にみる遅霜などの影響で野菜価格が高騰し、売上が伸び悩んでいる」(農畜産物・水産物卸売業)、「5月になっても3週連続で燃料油の仕入価格が上昇しているが、相変わらず販売競争が激しく、小売価格に転嫁できず苦しい状況」(化学製品卸売業)、「新規顧客の獲得よりも、既存顧客のサービス需要の掘り起こしに努めている」(自動車卸売業)

【小売業】「ファッション業界では、長引く不景気と春先の天候不順により、消費の回復が遅い」(そ

他の小売業)、「ゴールデンウィークが好転に恵まれたこともあり、ドライブグッズの売上が好調であった」(その他の小売業)、「美術・宝飾・時計等の高額商品に僅かながら売上回復の兆しが見られた」(百貨店・総合スーパー)

【サービス業】「昼の売上は安定しているが、夜の客足が非常に悪くなっている」(食堂・レストラン)、「若干ではあるが前年に比べて宿泊数が増加した」(旅館)、「貨物量や輸送量に改善の兆しが見られる」(その他のサービス業)

五月のキーワード

仕入価格の上昇・高止まりによる影響

原材料価格の上昇・高止まりに対し、価格転嫁が難しく、収益への悪影響を訴える声が多く寄せられた。

原材料価格の値上がりが続いているが、取引先への価格交渉が進まないため、収益が圧迫されている(佐野・金属加工機械製造業)。今年4月に原材料の値上がりがあったが、その値上げ分を未だ転嫁できていない。7月に再値上げが行われる見通しであり、先行きは非常に厳しい(習志野・その他金属製品製造業)。仕入価格が上がっているが、販売価格に転嫁できずと客離れが起きる可能性がある

のため、我慢せざるを得ない状況である(海老名・その他の一般飲食店)

根強い消費者の低価格志向

消費者の低価格志向は依然として根強く、購入単価の低迷による売上の悪化などの悪影響を訴える声が多い。

見積り依頼が増加しているものの、消費者の低価格志向の影響もあってか、その大半が受注に結びついていない(静岡・各種商品卸売業)。低価格競争が一段と厳しさを増しており、販売単価の回復はなかなか望めない状況(札幌・百貨店・総合スーパー)。「ゴールデンウィークは曜日の配列がよかったため宿泊客は増えたものの、宿泊料金の低価格競争により経営環境は年々厳しくなっている」(那覇・旅館)

受注売上に回復の兆し

受注・購入単価は低迷が続いているものの、製造業における受注量や百貨店における来客数などに回復の兆しが出ているとの声も寄せられている。

業況は依然厳しいが、輸出関連の金属加工では、欧州からの受注に少し回復の兆しが出てきた(さいたま・金属加工機械製造業)。商店街全体を見たとき、特売日に目玉商品だけを買い

つて帰る人もいるが、全体的には個人消費が回復しているように見られる(鎌倉・商店街)。「美術・宝飾・時計等の一部高額商品の売上が僅かながら回復傾向にある」(静岡・百貨店・総合スーパー)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
4月	▲45.7	▲59.6	▲30.6	▲48.5	▲50.9	▲45.5
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
見通し	▲36.5	▲53.7	▲27.2	▲27.6	▲38.8	▲36.1

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏の景気情報

(5月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年5月19日～24日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数72

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
4月	▲39.4	▲64.2	▲5.8	▲48.1	▲38.4
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
見通し	▲37.5	▲13.3	▲12.5	▲55.5	▲57.1

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIのマイナス幅拡大
大 全国をわずかに下回る

5月の全産業合計のDI値(前年同月比)ベース、以下同じは、43.0(前月水準39.4)となり、マイナス幅が3.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業(33.3)同6.4点であり、マイナス幅が30.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業(62.9)同

48.1)、サービス業(50.0)同(38.4)、製造業(12.5)同(5.8)である。

【建設業】からは、「業費全体が課題」「土木工事(舗装・しゅんせつを除く)」「公共事業の管工事(建設)部門を抱えています。入札がなく担当社員を遊ばせている状態です」(管工事業(さく井を除く))等のコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原材料価格が高値で推移しており、採算を圧迫している」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「利益率の高いセクシヨンの売り上げが伸び、低いセクシヨンの減っている」(生コンクリート製造業)など、売上高は変わらずも採算は好転。ただし先行きは不明(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「地元の飲食店がかなり悪化している」ので、我々も納品数量が激減しています(食料・飲料卸売業)、「子ども手当てにより生活に余裕が多少なりとも感じられるようになった」と(その他の各種商品小売業)、「ベアレストレー作品の発売で、売上減少分を穴埋めできたため、売上前年並み確保」(書籍・文房具小売業)、「5月度GWの入店客数は集客イベントに左右

され、日によって増減があり、5日累計では94.2%であったが、売上高は天候に恵まれ夏物衣料が活発化したことから売り上げ累計は99.8%という結果であった。上旬は母の日イベント等で前年並み、中旬は低調な推移となり、特に平日の落ち込みが大きく苦戦した」(各種商品小売業)、「商店街の撤退閉店が目立つ」(書籍・文房具小売業)などといった声も寄せられた。

【サービス業】では、「宴席は堅調に推移しているものの、宿泊の売り上げが非常に厳しい」(ホテル)といったコメントがあった。

五月の景気キーワード

消費動向

各業種から、「売上、来店客数ともに下げ止まり感はあるものの、先の欧州の金融不安による株安の影響など、今後の消費動向に悪要因となる事象も発生しており、楽観できない状況」(百貨店)、「新聞等では一部の企業で賞与の増加が期待できるとの報道があり、今後の消費拡大を期待したい」(食料・飲料卸売業)、「子どもものの母の日いずれも例年より財布のひもが固くなっている」(その他の各種商品小売業)、「低価格競争販売が激化して

いると感じる。消費者は衣料食品ともに低価格商品で満足している状態」(その他の飲食料品小売業)などの声が多数寄せられた。

天候不順の影響

各業種から、「先日の低温長雨日照不足から、青果物の成長に影響し、価格の高騰がありました」(一転GWの好天続きから、青果物は順調な成育となり、単価安売り上げ減の厳しい状況となりました)。「今後の天候も高低差の予報があり、密な情報と消費動向を得ながら取引をしています」(食料・飲料卸売業)、「春物衣料が天候不順で不調であったが、気温の上昇とともに価格の低い軽衣料が若干ではあるが売れている」(その他の各種商品小売業)、「宮崎県の家畜伝染病に対して風評被害が少しずつ出てきたのと、5月に入り強風と雨の天候不順による来店客数の減少が続いています」(食肉小売業)などのコメントが寄せられている。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が43.0に対し、「CCI LOBO」が39.7で、柏の方がマイナス幅が3.3

3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業でいずれも10ポイント以上悪い。